

# 事業報告書

令和元年度

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

公益財団法人 国際全人医療研究所

## I 公益目的事業

### 1. 全人的医療の研究・教育・普及及び関連学会、研究会、ワークショップの運営

全人的医療の実践のための基礎的及び臨床的な知識、技術、態度に関する研究を行い、成果を患者（市民）に還元することを目的とし、国際全人医療学会、日本実存療法学会、日本疼痛心身医学会、市民公開講座等を運営、実施した。

#### 【事業内容】

	事業名	開催日	会場	参加者数
国際全人医療学会・日本実存療法学会	第25回日本実存療法学会および第7回国際全人医療学会	7月6日	日本教育会館（東京）	57名
	大会テーマ：全人的医療と患者学 〈プログラム〉 特別講演1 「関係性の病をいかに突破するか～拙著『フロムと神秘主義』の視点に立って」 清 真人（元近畿大学文芸学部教授）  特別講演2 「患者学の本質とは」 加藤眞三（慶応義塾大学看護医療学部教授）  シンポジウム テーマ：全人的医療と患者力 「慢性疼痛患者の持つ実存性～問診票とインタビューから見えてくること」 志和悟子（千代田国際クリニック） 「患者力を治療に生かす」 橋本裕子（千代田国際クリニック） 「フランクルの心理療法の実践報告」 元吉正幸（こころと身体研究所所長） 「唾液分泌過多症に対する外来森田療法」 中野良信（蒼生会病院歯科口腔外科部長） 「サルトジェネシス（健康創成論）と患者力」 青山幸生（東邦大学医学部麻酔科学講座客員教授） 「マイケル・バリントの説く実地医療と患者力」 喜山克彦（喜山整形ハーブクリニック院長）  市民公開講座 「池見西次郎先生とVEフランクル博士の人間観・患者学」 永田勝太郎（当法人代表理事）			
	登録国際実存療法士；RIL 資格認定講習会 Level-1（第9回）	6月1日	当法人会議室	16名
	テーマ：心理療法入門・実存分析入門 〈プログラム〉 講義1 実存カウンセリングの基礎 志和悟子（千代田国際クリニック，RIL） 講義2 ヴィクトール・フランクル博士の生涯と実存分析 永田勝太郎（当法人代表理事） 症例検討 国際実存療法士による実際例～鍼灸治療の現場から 廣門靖正（国際鍼灸専門学校，RIL）			
	登録国際実存療法士；RIL 資格認定講習会 Level-2（第5回）	4月6日	当法人会議室	15名
テーマ：実存分析の応用 〈プログラム〉 講義1 慢性疼痛とサルトジェネシス（健康創成論）～全人的医療の文脈で考える 青山幸生（東邦大学医学部麻酔科学講座客員教授） 講義2 ログセラピーを通じた自己洞察 千村孝峰（くれたけ心理相談室，RIL） 講義3 ログセラピーを共有したチーム医療による医療 志和悟子（千代田国際クリニック，RIL） 総括 実存分析の本質 永田勝太郎（当法人代表理事）				

	登録国際実存療法士；RIL 資格認定講習会ワークショップ（第9回）	9月7日	当法人会議室	19名
	テーマ：実存分析（ロゴセラピー）と音楽療法の実際 〈プログラム〉 症例検討 ロゴセラピーの実際2例 志和悟子，大槻千佳（千代田国際クリニック，RIL） 音楽療法の実際 ①音楽療法について ②音楽療法～ピアノ演奏 ③実存分析的音楽療法 店村真知子（音楽と全人教育研究所所長）			
	第32回日本疼痛心身医学会	11月9日	日本教育会館 （東京）	72名
日本 疼痛 心身 医学 会	テーマ：慢性疼痛のチーム医療 〈プログラム〉 特別講演1 「フレイルからの脱却～動きたくなるカラダと動けるココロ」 天川淑宏（東京医科大学八王子医療センター）  特別講演2 「膵臓病をめぐって～おなかの痛み？」 今泉俊秀（八王子消化器病院理事・膵臓病センター長）  特別講演3 「糖化ストレスと炎症・疼痛」 米井嘉一（同志社大学生命医科学部糖化ストレスセンター教授）  シンポジウム テーマ：慢性疼痛の集学的治療 「双極性障害患者の非定型歯痛への対応」中野良信（蒼生病院歯科口腔外科部長） 「関節運動学的アプローチ（AKA）～博田法の慢性疼痛患者に対する治療効果について」 小檜晃（こぐれ理学診療クリニック院長） 「筋痛性脳症／慢性疲労症候群（ME/CFS）の診断基準と医療社会的背景」 喜山克彦（喜山整形ハーブクリニック院長） 「チーム医療と地域支援サポートとの連携により効果を得た一例」 橋本裕子（千代田国際クリニック，きんつう相談室）  特別プログラム 「私の自己実現～93歳フォトグラファー」 小川ゆきよ  市民公開講座 「慢性疼痛（線維筋痛症）の集学的治療～チーム医療の視点から」 永田勝太郎（当法人代表理事）			
	痛みの患者会	毎月2回 （第2，4水曜日）	当法人会議室	各10～ 15名
	〈内容〉 痛みの原因・治療方法のレクチャー、音楽療法、食事療法、運動療法、ピアカウンセリング等			
市民 公 開 講 座	池見西次郎先生とVEフランクル博士の人間観・患者学 永田勝太郎（当法人代表理事）	7月21日 （於第24回日本 実存療法学会）	日本教育会館 （東京）	57名
	慢性疼痛（線維筋痛症）の集学的治療～チーム医療の視点から 永田勝太郎（当法人代表理事）	11月17日 （於第32回日本 疼痛心身医学会）	日本教育会館 （東京）	72名

## 2. 国際実存療法士の認定及びカウンセリング事業

登録国際実存療法士（Registered International Logotherapist ; RIL）は、本法人に事務局を置く日本実存療法学会とヴィクトール・フランクル研究所（オーストリア ウィーン）の共同認定資格である。日本及び国際における全人的医療の高度な水準の維持と向上・普及を図ることにより、市民に最適な全人医療を提供することを目的として、学識・経験及び倫理観が備わった専門職且つ、実存分析療法のできる医師やコメディカル、教育や福祉等の分野に携わる者に、基礎および臨床を学ぶ場を提供し、条件を満たした者に資格を付与している。

本年度は、資格認定講座 Level-1、Level-2、ワークショップを各 1 回開催した。新規に資格登録を目指す者は 5 名。新規申請者は 0 名であった。また、資格保持者の更新（5 年毎）が 4 名おり、その内 2 名を上級国際実存療法士（指導士）に審査の上、認定した。

当制度が発足した 2012 年からの資格登録者は 22 名、内上級資格をもつ者は 2 名（2020 年 3 月末現在）である。

本年度末には、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、経済、教育、生活様式の全てが一変した。医療現場においても想定を超える影響下におかれ、緊急体制が十分に整わない中、患者のケアに尽力している。さらに、自粛生活が長期化する中、患者の心身のケアに、全国の国際実存療法士が果たす役割は大きく、その活躍を期待するところである。当法人内（従業員）の資格保持者によるカウンセリングは有償で行うこととし、その料金等はホームページで公知している。本年度の実施件数は 0 名であった。また、全国に居る資格保持者を紹介する窓口を設けている。現在のところ、紹介手数料は無料とし、カウンセリング料金は、各資格者が個別に設定することを許可している。

## 3. 痛みと疲労の患者大学（旧称 痛みの患者会）、日本疼痛心身医学会分科会

さまざまな病や症状によって生じる痛みや疲労には、その背景に慢性的な血液循環の悪さと食習慣の乱れが考えられる。当会では、医師や医療職が講師となり、身体の不調のしくみや治療方法をレクチャーし、自信の痛みをセルフコントロールする方法を習得することを目的としている。

今期は、痛みの患者会を月 2 回定期開催した。また、痛みの患者会の一環として、音楽と食事療法の会を 3 ヶ月に 1 回程度開催した。痛みの患者会では、病態や治療法のレクチャーや、患者同士で自己体験を語るピアカウンセリングなどを行った。音楽と食事療法の会では、音楽（ピアノ）によるリラクゼーション方法を学び、また、よりよい食事の摂り方などを体験的に学ぶ講習とした。

当初、当会への参加は自由意志で行っていたが、参加した患者の治癒が早い様子がみられたため、今後は、より積極的に参加してもらうしくみに変更していく予定である。

まずは、来年度より、会の名称を改め『痛みと疲労の患者大学』とし、講習をレベル 1（診断編）とレベル 2（治療編）に分け段階的に開催する。

レベル 1 では、痛みと疲労の成り立ちを理解し、回復のための方法論を学ぶ講習とした。医師、看護師による病態や治療の解説、心理師によるよりよい人生を送るための態度価値（患者力）などについてのレクチャーに加え、音楽療法士による音楽療法（リラクゼーションによる緊張緩和の体験）などを行う。

レベル 2 では、実際の体験を通して、生活の整え方を学ぶ講習とした。主に、管理栄養士によるよりよい食事・栄養の摂り方について、また、呼吸法や運動療法を体験的に学ぶ場とする。能動的学習により、自身の身体への理解が深まり、治療へのモチベーションが高まることを期待する。

#### 4. バリントグループワーク

バリントグループワークは、患者中心医療を行うための「バリント方式の医療面接法」を習得し、「治療的自我（therapeutic self）」を高める教育方法である。バリント方式の医療面接法とは、患者固有の身体・心理・社会・実存性を、患者とともに相互主体的に理解できるようになることであり、全人的医療を行う治療者にとって必要なスキルである。

当会は、月1回第2火曜の夕方の定期開催とし、本年度は、4/17、5/14、6/11、7/16、9/17、1/21、2/18の計7回行った。参加者は、医師、看護師、国際実存療法士、家族療法士、精神保健福祉士、薬剤師、鍼灸師、教育・福祉関係者等など、毎回10～15名が参集した。持ち回りで提示された症例に対し、各専門領域の見識で意見を出し合い、また、医師によるスーパーバイズを受けることで、新たな視点を得ることができるため、積極的な事例提示が増えている。

また、討論内容の一部を、本法人のWEBブログに公開、また、学術雑誌「全人的医療」に抄録を掲載した。

#### 5. 学術雑誌「全人的医療 Comprehensive Medicine Vol.18 No.1」の発行

本誌には、医系学術論文、学術大会・講習会等の開催内容、法人規約等を掲載している。本年は、下記の通り編集、発刊し、会員へ配布した。また、国立国会図書館、科学技術振興財団等へ寄贈。

さらに、医学中央雑誌、WEB医系論文検索サイトのJ-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）、メディカルオンラインへの掲載もされ、国内外でのWEB閲覧が可能となっている。

##### 全人的医療 Comprehensive Medicine Vol.18 No.1 発行概要

発行日:2020年1月25日、発行部数:200部

掲載内容:原著論文1、総説2、症例報告3、WHOレクチャー1、開催報告、開催案内、規約・会則 他

#### 6. ホームページ等を活用した情報発信

学会、講習会等の案内や各種調査・研究活動等の報告、その他の情報発信の窓口としてホームページの継続的な管理・運営を行った。本年度は、ブログページを新設し、事業活動の開催案内、実施報告をWEB上に掲載していくこととした。講習内容の一部を写真と共に掲載することで、参加者には講習の振り返りができ、また、新規閲覧者には参加への興味を持つ人が増えた様子が窺えた。

#### 7. 技術開発・研究開発事業

当事業では、全人的医療に根ざした医療機器および治療方法について、当法人代表理事を世話人として、医療機器・薬剤等の研究者、臨床従事者、事務局スタッフ等で構成する開発推進プロジェクトや研究会を発足し、研究開発を行っている。

本年度は、昨年につき、鍼灸医学研究会のメンバーによる慢性疼痛への温熱効果の臨床研究を進め、集積したデータの解析段階にある。

さらに、生体の糖化・酸化・血行動態学の研究を主軸に、痛みや疲労等の症状の原因追究に関する科学研究を進めた。

これらの研究は、本法人の人を対象とする医学系研究に関する倫理委員会で審査し、了承を得たも

のについて厚生労働省研究倫理審査委員会報告システムに登録し、実施、経過報告等を行っている。本年度は、第3回倫理委員会を開催し（9月19日、於本法人会議室）、新規研究申請13件及び研究実施状況の報告7件について審議した。

## 8. 研究生制度・見学生制度の設置

当事業では、全人的医療の実践教育を行うため、研究生・見学生の制度を設け、教育を通じて、全人的医療の啓発、普及等を行うとともに、人材の育成を行う。対象者は、規定に設ける条件を満たし審査に合格した者としている。

本年度は、4月より医師1名（専門：整形外科，心身医学）の研究生を受け入れた。提携している臨床研究施設（千代田国際クリニック）にて、臨床見学、研究の指導を行い、学会発表、論文作成の指導を行った。当該者は、来年度も引き続き研究生として在籍する。本年度の見学生の受け入れはなかった。

## 9. 医療施設等の設置及び運営

効率的な全人的医療の実践には、現代医学、心身医学、東洋医学の適応と限界を熟知した上での統合的医療の実践が必要である。その実践には医療職への教育が必要となる。そのため、研究生・見学生制度を設け、全人的医療のできる医療職の育成を進めてきた。全人的医療は国民の願いであるが、その実践を行っている場は少ない。

今回、全人的医療を実践、研究、教育する場として、本法人の公益事業に医療施設等の設置及び運営の許認可を内閣府に申し入れた（2019年3月25日付）。審議が重ねられた結果、2019年11月20日付、公益財団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第11条第1項の規定に基づき認定された。

本法人では、千代田国際クリニック（東京都千代田区）を、その医療施設として運営していくことを本法人の理事、評議員の承諾を経て決定し（評議員会決議日2020年3月23日）、2020年4月1日付にて千代田区保健所の許認可を得、運営を開始することとした。

## II 会員数

昨年度末の会員数は下記の通りである。一般会員の退会者が11名、逝去者1名、新規入会者13名。賛助会員1件が退会した。

(人, 件)

区分	平成30年度末	令和元年度末	増減
一般会員	129	130	+13, Δ12
学生会員	2	2	±0
賛助会員	2	1	Δ1
合計	133	133	±0

### Ⅲ 理事会・評議員会の開催

#### (1) 理事会

第1回：令和元年6月4日

決議事項

1. 平成30年度公益財団法人国際全人医療研究所 事業報告及び収支決算の承認について
2. 令和元年度公益財団法人国際全人医療研究所 定時評議員会の招集について

第2回：令和2年3月10日

決議事項

1. 令和2年度公益財団法人国際全人医療研究所 事業計画及び収支予算の承認について
2. 令和2年度公益財団法人国際全人医療研究所 定時評議員会の招集について

#### (2) 評議員会

第1回：令和元年6月20日

決議事項

1. 平成30年度公益財団法人国際全人医療研究所 事業報告及び収支決算の承認について

第2回：令和2年3月26日

決議事項

1. 令和2年度公益財団法人国際全人医療研究所 事業計画及び収支予算の承認について

以上